

北薩感染症情報

2018年第42週(10月15日~10月21日)

【問い合わせ先】 〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1

北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課

電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127

E-メール kita-kenkou-shippe@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中 ○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内						
		開始基準値	終息基準値	基準値		前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報		
		定点報告数															
内科・小児科定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0		1	5	0.71	↗	-	-	-	-	-	-	-	-
小児科定点	RS	-	-	-		5	2	0.50	↓	-	2	-	-	↓	-	-	-
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	-		13	6	1.50	↓	◎	2	3	1.00	↗	-	-	-
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-		14	21	5.25	↗	-	8	5	1.67	↓	-	-	-
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	-		13	15	3.75	↗	-	1	4	1.33	↗	-	-	-
	水痘	7.0	4.0	4.0		-	-	-	→	-	-	1	0.33	↗	-	-	-
	手足口病	5.0	2.0	-		4	-	-	↓	-	1	-	-	↓	-	-	-
	伝染性紅斑	2.0	1.0	-		-	-	-	→	-	-	1	0.33	↗	-	-	-
	突発性発疹	-	-	-		2	5	1.25	↗	-	2	2	0.67	→	-	-	-
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-		6	10	2.50	↗	-	-	1	0.33	↗	-	-	-
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	-	-
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-		-	-	-	→	-	/	/	/	/	/	/	/
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	-		3	8	8.00	↗	◎	/	/	/	/	/	/	/
養老定点	細菌性髄膜炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	-	-
	無菌性髄膜炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	-	-
	クラミジア肺炎	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	-	-
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに属する	-	-	-		-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	-	-
インフルエンザ入院報告	-	-	-		-	-	/	→	-	-	-	/	→	-	-	-	
報告数合計		-	-	-		61	72	/	↗	/	16	17	/	↗	/	/	/

<注意報・警報>

- ・川薩保健所管内 咽頭結膜熱(11週連続警報継続中), 流行性角結膜炎(警報発令)
- ・出水保健所管内 なし

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 百日咳(患者)1件
- ・出水保健所管内 なし

<インフルエンザによる入院患者報告>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし

5類定点把握疾患

○インフルエンザ

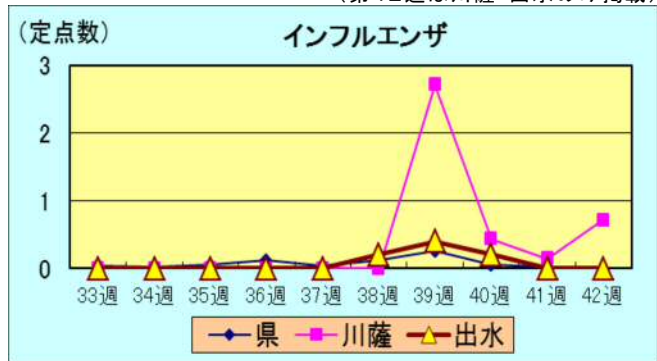
【警報開始基準値 30.0, 警報終息基準値 10.0, 注意報基準値 10.0】

(第42週は川薩・出水のみ掲載)

第42週のインフルエンザの発生状況は、

川薩保健所管内からは5名(定点当たり報告数 0.71)の報告がありました。

出水保健所管内からの報告はありませんでした。



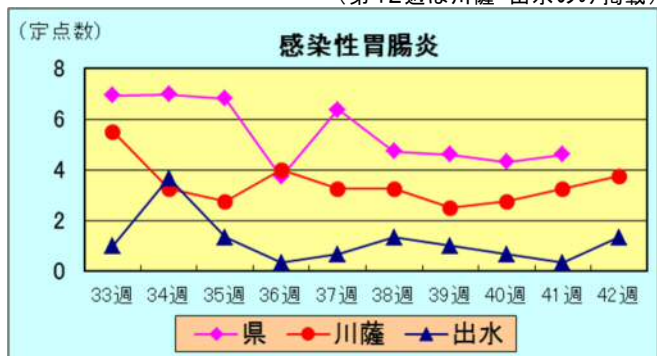
○感染性胃腸炎について

【警報開始基準値 20.0, 警報終息基準値 12.0】

(第42週は川薩・出水のみ掲載)

第42週の感染性胃腸炎の発生状況は、川薩保健所管内からは15名(定点当たり報告数 3.75)の報告がありました。

出水保健所管内からは4名(定点当たり報告数 1.33)の報告がありました。



(注意報・警報)

○咽頭結膜熱について

【警報開始基準値 3.0, 警報終息基準値 1.0】

(第42週は川薩・出水のみ掲載)

第42週の咽頭結膜熱の発生状況は、川薩保健所管内からは6名(定点当たり報告数 1.50)の報告があり、**警報が11週連続継続中です。**

出水保健所管内からは3名(定点当たり報告数 1.00)の報告がありました。



○流行性角結膜炎について

【警報開始基準値 8.0, 警報終息基準値 4.0】

(第42週は川薩・出水のみ掲載)

第42週の流行性角結膜炎の発生状況は、川薩保健所管内からは8名(定点当たり報告数 8.00)の報告があり、**警報開始基準値 8.00を上回りましたので本日、警報を発令しました。**



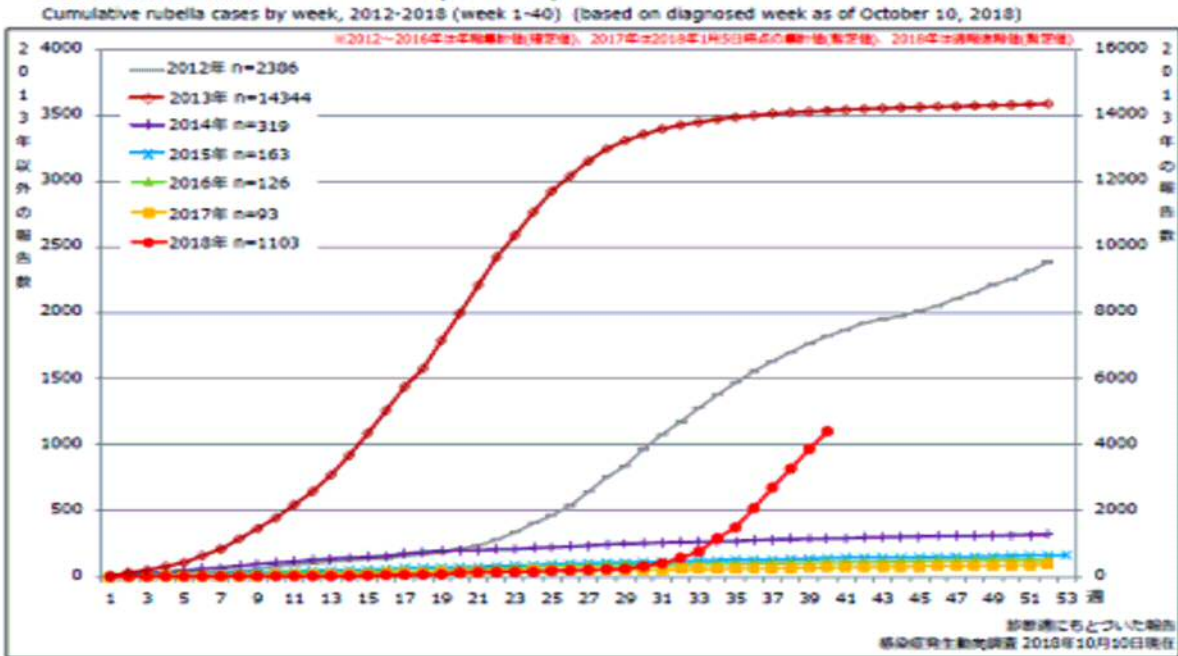
風疹急増に関する緊急情報：2018年10月10日現在

国立感染症研究所 感染症疫学センターより抜粋

2018年第1～40週の風疹患者累積報告数は1,103人となり(図1)、第39週までの累積報告数952人から151人増加した。

2008年の全数届出開始以降では、2018年は2013年、2012年に次いで3番目に多く、2017年(93人)の12倍の報告数となった。

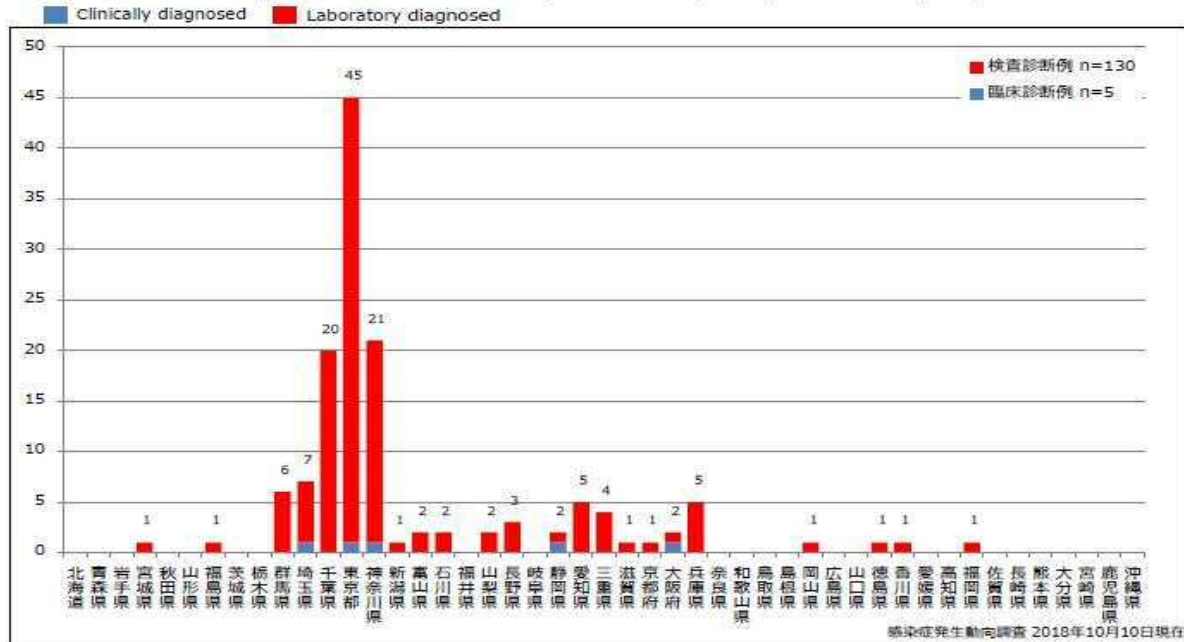
1. 風しん累積報告数の推移 2012～2018年(第1～40週)



第40週は東京都、千葉県、神奈川県、埼玉県、愛知県の5都県以外に、群馬県(6人)、兵庫県(5人)、三重県(4人)、長野県(3人)、富山県、石川県、山梨県、静岡県、大阪府(各2人)からも複数報告された。

3. 都道府県別病型別風しん報告数 2018年第40週 (n=135)

Reported rubella cases by prefecture and methods of diagnosis in week 40, 2018 (as of October 10, 2018)

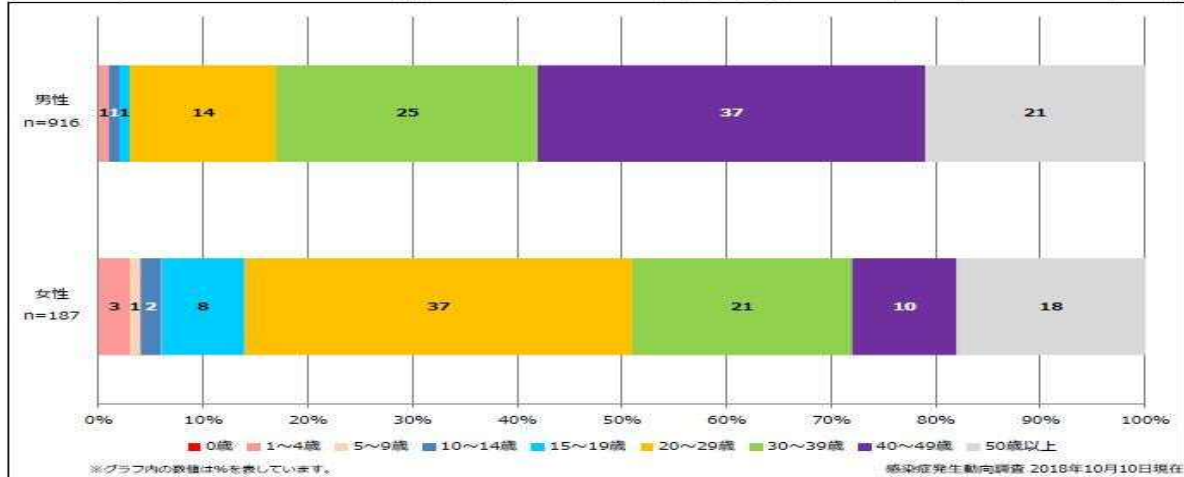


報告患者の96%(1,057人)が成人で、男性が女性の5倍多い(男性916人、女性187人)男性患者の年齢中央値は41歳(0～85歳)で、特に30～40代の男性に多く(男性全体の62%)、女性患者の年齢中央値は29歳(1～76歳)で、特に妊娠出産年齢である20～30代に多い(女性全体の58%)

予防接種歴は無し(266人:24%)、あるいは不明(754人:68%)が92%を占める

6. 年齢群別風しん累積報告数割合 (男女別) 2018年 第1~40週 (n=1103)

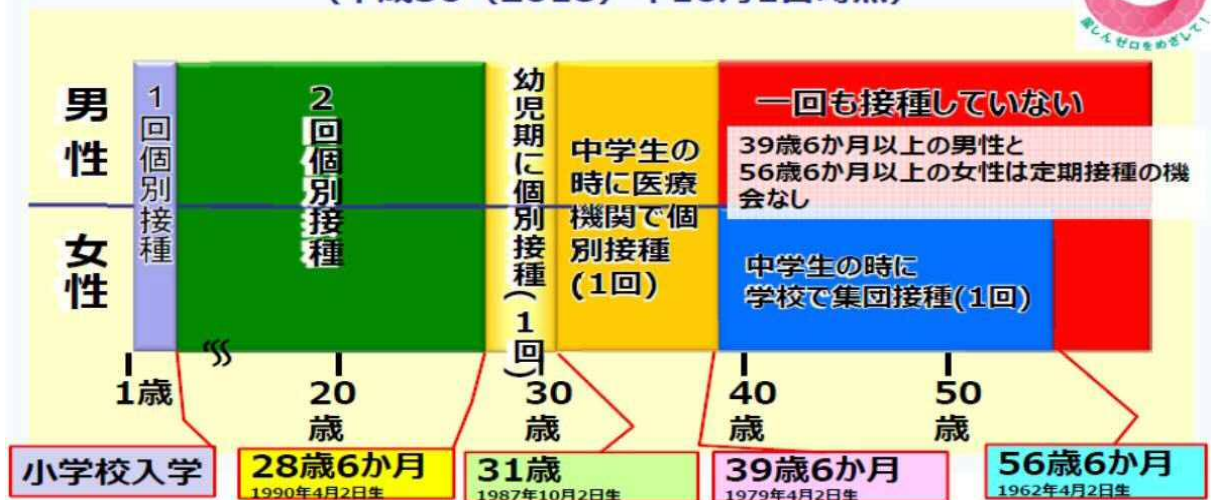
Percentage of cumulative rubella cases (upper: male, bottom: female) by age group, week 1-40, 2018 (as of October 10, 2018)



風疹はワクチンによって予防可能な疾患である。今回報告を受けている風疹患者の中心は、過去にワクチンを受けておらず、風疹ウイルスに感染したことがない抗体を保有していない集団である。

日本において風疹ワクチンは、1977年8月～1995年3月までは中学生の女子のみが定期接種の対象であった。1989年4月～1993年4月までは、麻疹ワクチンの定期接種の際に、麻疹おたふくかぜ風疹混合(MMR)ワクチンを選択しても良いことになった。当時の定期接種対象年齢は生後12か月以上72か月未満の男女であった。1995年4月からは生後12か月以上90か月未満の男女(標準は生後12か月～36か月以下)に変更になり、経過措置として12歳以上～16歳未満の中学生男女についても定期接種の対象とされた。2001年11月7日～2003年9月30日までの期間に限って、1979年4月2日～1987年10月1日生まれの男女はいつでも定期接種(経過措置分)として受けられる制度に変更になったが、接種率上昇には繋がらなかった。2006年度から麻疹風疹混合(MR)ワクチンが定期接種に導入され、1歳と小学校入学前1年間の幼児(6歳になる年度)の2回接種となり、2008～2012年度の時限措置として、中学1年生(13歳になる年度)あるいは高校3年生相当年齢(18歳になる年度)の者を対象に、2回目の定期接種が原則MRワクチンで行われた。

風疹含有ワクチンの定期予防接種制度と年齢の関係 (平成30(2018)年10月1日時点)



これらのワクチン政策の結果、近年の風疹患者の中心は小児から成人へと変化している。妊娠20週頃までの女性が風疹ウイルスに感染すると、胎児にも風疹ウイルスが感染して、眼、耳、心臓に障害をもつ先天性風疹症候群の児が生まれる可能性がある。妊娠中は風疹含有ワクチンの接種は受けられず、受けた後は2か月間妊娠を避ける必要があることから、女性は妊娠前に2回の風疹含有ワクチンを受けておくこと、妊婦の周囲の者に対するワクチン接種を行うことが重要である。また、30～50代の男性で風疹に罹ったことがなく、風疹含有ワクチンを受けていないか、あるいは接種歴が不明の場合は、早めにMRワクチンを受けておくことが奨められる。風疹はワクチンで予防可能な感染症である。